



届け 世界の果てまでも

令和2年 9月30日

No. 35

文責 校長 飯久保一男

With コロナの行事としての運動会

毎年のことですが、当日の朝まで天気は心配です。そうして迎えた、コロナ禍で行う特別な運動会でした。開会式の前半こそ、テントの中で行う形をとりましたが、他は、雨の影響がほとんどなくでき、安心していているところです。様々な制限があった運動会でしたが、それが故に、コンパクトで、子どもたちはよく集中した運動会になりました。内容を表現運動とリレーに絞らせてもらいましたが、一人一人が主役になり、内容の濃いものになったと思っています。子どもたちは6年生を先頭によくがんばり、見ていただいた皆さんが感動していただける運動会になったと思っています。

保護者の皆さんには、観覧エリアの入れ替えなど、放送等の指示に従っていただきありがとうございました。何より、ご観覧の皆さんが集中してご観覧いただいたことで、会場全体で子どもたちを主役にした運動会にできたと思っています。



1・2年生 表現 「今日から俺は!! おがさはらバージョン」



3・4年生 表現 「2020おがしょうソーラン」



5・6年生 表現 「We get the victory」

「With コロナ」といわれることがあります。コロナウイルスもやがて、インフルエンザウイルスと同じようなウイルスとして、人類は付き合っていくようになるのでしょうか。

今年の運動会は、私たち教職員もそうなのですから、子どもたちも、そして保護者の皆さんも、どうしても、昨年度までの運動会と比べてしまうと思います。今年の運動会を「種目数が少ない」「取り組みが限られている」「観覧場所が確保できない」「お弁当を食べられない」などの物足りなさを感じてしまうのではと思います。上に兄・姉のいない、初めての小学校の運動会だった1年生やその保護者の皆さんはどう感じたのでしょうか。保育園・幼稚園の運動会と比べてやはり物足りないと感じたのでしょうか。

しかし、With コロナ・新しい生活様式の、新しい行事と考えてみると、こういう形で保護者の皆さんと楽しい時間を共有する体育行事でもいいのかな、これはこれでありなのかなとも感じました。もちろん、今年のコロナ禍がなければ、例年の運動会に近い形の運動会を行っていたと思います。

With コロナだけでなく、教職員の多忙化の問題・学校行事のスリム化を図ることなどから、運動会などの行事が学校教育に及ぼす「マイナス」の面について指摘する学者や評論家もいます。これまでは、目標をしっかりと定め、その目標を達成するために、全員が同じ方向を向いて取り組み、子どもたちの成長に「プラス」になる面が大きいので、運動会をはじめとする行事にたくさんの時間をかけて取り組んできたのです。そして、大きな成果を上げてきたことは確かなことです。

これらを踏まえた上で、今回の運動会の形を、With コロナ・新しい生活様式の中で行う行事の一つの提案として考えていただき、今後、職員会議・PTAの話し合いの中で、運動会をはじめとする行事のあり方を検討していきたいと思っております。今年、アンケートもお願いをします。ご感想などをお寄せください。



登校中の児童生徒を見守るメンバー
＝南アルプス市小笠原

峡中

登下校 見守り活動20年

南ア・小笠原と山寺の住民有志

「子どもの笑顔 生きがい」

村松 大輔
松本飛勇馬
(055)280-3230
FAX 280-3231

南アルプス市小笠原、山寺の両地区の住民有志が、登下校中の児童生徒の見守り活動を続け、今年で20年目を迎えた。メンバーは「子どもの笑顔が生きがい。これからも見守っていきいたい」と話している。

活動を続けてきたのは、同市柿平地区の老人クラブが2001年に立ち上げた「小学生見守り交流活動隊」。先駆的な自主防犯ボランティアとして07年には文部科学省の学校安全ボランティア活動奨励賞を受賞した。18年からは小笠原、山寺地区の住民有志も参加し、現在は18人で活動している。

午前8時と午後3時に登下校する児童、生徒を見守り、犯罪や交通事故から守る「83（はちさん）運動」を展開。メンバーは交差点や横断歩道近くに立ち、徒走や自転車の子どもたちに注意を払ったり、横断する際の誘導をしたりしている。

見守り活動だけでなく、青色パトロールカーによる防犯警戒や、南アルプス警と協力

9月19日（土）の山梨日日新聞の記事です。

見守り隊の皆様には大変感謝をしております。子どもたちの安全・安心のため、夏の暑い日も、雨の日も見守り活動をしていただいております。

学校の使命の大原則は、子どもたちの命を守ることです。今年、コロナウイルスへの対策も含まれてしまいますが、1日のうち、子どもたちの命の危険がある場面といってまず浮かぶのは、登下校です。教職員の目の届かない場面であり、交通事故をはじめ、不審者等との遭遇の危険が考えられ、心配な場面です。

保護者の皆さんやおじいちゃん・おばちゃん、子どもたちと一緒に登校をし

てくださっている方もいますが、地域の子もたちを地域の皆様が温かく見守ってくださり、育てていただいていることを大変ありがたく思っています。ときには、子どもたちのトラブルにも対応して下さっています。

子どもたちには、見守り活動をして下さっている方々へ感謝の気持ちをもってほしいと思っています。

して新入児童に防犯グッズを贈るなどの取り組みも継続している。

今年、新型コロナウイルスの影響で臨時休校となり、約3カ月間、子どもたちの見守り活動を休止。杉本健隊長は「当たり前のように聞いていた子どもたちの声がなくなると、心にぽっかりと穴が開いて登下校できていない。大変ありがたい」と感謝している。

返り、「子どもたちは将来を担う大切な地域の宝。元気に楽しく学校に通えるよう、これからも活動を続けたい」と決意を新たにしている。

長年にわたる活動に対し、小笠原小の飯久保一男校長は「毎日必ず同じ場所で見守ってくれ、子どもたちも安心して登下校できています。大変ありがたい」と感謝している。